

彼らなくして、高岡大仏は語れない。

大仏再建の立役者たち。

高岡大仏造立に生涯を捧げた篤志家

松木 宗左衛門

MATUKI Souzaemon

高岡で売薬業を営んでいたが、二代目高岡大仏が焼失した直後に出家し大仏再建を志す。土地を寄進し、自ラリアカーを引いて金属を集め回るなど尽力するも、病気のため大仏完成を見ずしてこの世を去った。



再建中止の窮地を救った実業家

荻布 宗四郎

OGINO Soushirou

北洋漁業や海産物販売、倉庫業等を手掛けた高岡出身の実業家。大仏再建が資金難で停滞していた頃、多額の寄付をして再び機運を盛り上げた。戦時中、役所へ談判し金属供出による廃仏危機から大仏を救った。



美しい大仏をデザインした若き彫刻家

中野 双山

NAKANO Souzan

富山県工芸学校（現・高岡工芸高校）を卒業後、彫刻家を目指し東京美術学校（現・東京藝術大学）に進学。帰郷後、20代で高岡大仏の原型製作を依頼され、奈良など全国の仏像から学び高岡大仏を見事に完成させた。



民衆が造り上げた高岡大仏

高岡の町民たち

高岡大仏は青銅製としたため多くの浄財や人手が必要となった。再建を願う町民の寄付と鋳物職人らの奉仕が実を結び、33年の歳月をかけて完成した。



高岡大仏の主な歴史年表

西 暦	和 暦	事 項
13世紀頃	鎌倉時代	・源義勝が二上山の麓に高さ約4.8mの仏像を造立（伝承）
1609	慶長14年	・高岡に築城した前田利長が仏像を城下に移す(伝承)
1745	延享2年	・「坂下町極楽寺」の良観が約9.7mの木造金色の大仏として再建（初代高岡大仏）
1821	文政4年	・2,300余戸が焼失する大火で大仏が類焼
1841	天保12年	・極楽寺第26世譲誉上人が、木造約4.8mの座像を再興（二代目高岡大仏）
1900	明治33年	・「高岡繁昌双六」に2代目大仏が描かれる(表紙) ・3,500戸が焼失する大火で大仏が全焼 ・松木宗左衛門が極楽寺第31世良禅上人と大仏再興を発願
1905	明治38年頃	・後に大仏の原型師となる中野双山が帰郷
1907	明治40年	・松木宗左衛門ら名士52名が高岡大仏再興事務所を設け寄付の募集を開始
1909	明治42年	・中野双山に大仏の原型製作を依頼 ・大仏事務所の紹介書及び高岡市長の紹介状を交付し中野双山に地方の仏像を視察させる
1911	明治44年	・御尊顔（頭部）を鋳造
1916	大正5年	・改めて大仏銅造再興計画を策定
1918	大正7年	・原型塑像完成間近となり中野双山再度先進の大仏を視察
1919	大正8年	・御尊体（体部）鋳造完成、鋳込を開始 ・溶かした銅がこぼれる事故で工事中止
1920	大正9年	・松木宗左衛門74歳で永眠
1928	昭和3年	・荻布宗四郎が多額の寄付をする
1932	昭和7年	・御尊体の鋳造、御尊顔の取り付けが完了
1933	昭和8年	・三代目高岡大仏が完成し開眼式を挙行
1958	昭和33年	・「円光背」を載せ現在の高岡大仏の姿に
1981	昭和56年	・補修（参道整備のため11m後退） ・高岡市文化財に指定
2007	平成19年	・平成の大修理（全体的な保存修理）

TAKAOKA

まちも、ものづくりも、ライバルはご先祖様。

日本三大仏

二度焼失するも民衆と鋳物職人の力で再建。
愛され続ける高岡大仏の歴史をたどります。

高岡大仏



「高岡繁昌双六（一部抜粋）」に描かれた二代目高岡大仏（高岡市立博物館蔵）

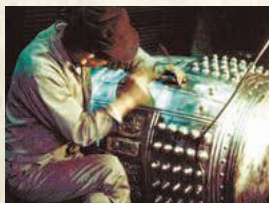
町民の心意気と技の象徴・高岡大仏



高岡の町並みの中に鎮座する高岡大仏は、浄土宗極楽寺の末寺、鳳凰山大仏寺にあります。約800年前、源義勝が二上山で一丈六尺（約4.8m）の木造大仏を造営したのが始まりとされます。史料などからは、かつて木造の大仏が2度の焼失に遭ったことが確認されています。現在の大仏は、明治33年（1900）の大火の後、幾多の困難を乗り越えて青銅製の仏像として再建されたものです。為政者ではなく町民による発願で、観光用でもなく地元の鋳物職人の技と町民の寄付による阿弥陀如来坐像の大仏であり、400年以上の伝統を誇る"銅器のまち高岡"の象徴として親しまれています。（高岡市指定文化財 銅造阿弥陀如来坐像）

銅器のまち高岡

江戸時代に開かれた高岡は商人和職人の町でした。商人は鋳物師や仏具・細工の職人らを結び付け、様々な銅器を作って海外にも販売しました。明治維新後は技術向上を図り、パリやウイーンの万国博覧会で受賞されるほどでした。高岡は銅器生産で国内トップシェアを誇ります。



民衆と共にある大仏様

御尊顔（頭部）を作るにあたり、材料となる地金が足りず、町民の家々から生活用具の古金属が寄せられ溶かし込まれました。高岡大仏には日々多くの人々が訪れていますが、それは親しみぶかい御姿だけでなく、このような背景が大仏様をより身近に感じさせるのかもしれません。

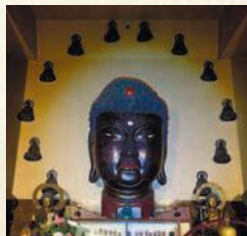


鋳物職人の技術力と心意気

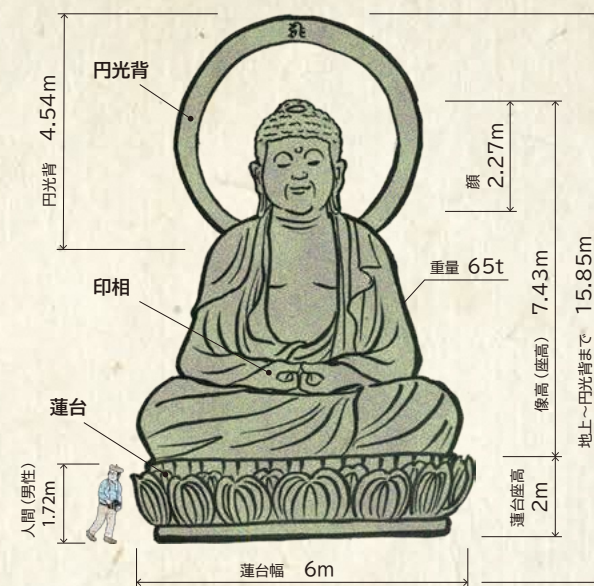
当初高岡大仏は、木造での再建が計画されていましたが、地場産業である高岡銅器の振興を考慮したのか青銅製とされました。しかし高岡では7m余りの仏像を鋳造した経験はなく、大仏の鋳造は困難を極めます。奈良東大寺など全国の大仏を見学し、鋳造方法を研究して鋳造を行いますが、大正8年（1919）、溶かした銅がこぼれ火傷者を出す事故が起き中断します。また、鋳造が終わっても、研磨や着色といった仕上げ作業が資金難などで思うように進展しませんでした。そこで高岡の鋳物職人たちは、道具や材料を持ち寄って無償奉仕し、ようやく大仏が完成しました。

円光背（えんこうはい）

屋外の大仏には珍しい円光背は、直径4.54m。昭和8年（1933）の大仏の完成時にありましたが、すぐには取り付けられず、25年後の昭和33年（1958）に建載されました。円光背に掛ける予定で鋳造された十二天仏（阿弥陀仏の十二の光を表す）が台座回廊内に安置されています。



高岡大仏をもっと詳しく



- ・阿弥陀如来（あみだによらい）
浄土宗の本尊とされ、命あるものすべてを平等に救う仏様。
- ・円光背（えんこうはい）
仏の頭部から発する光明を表現したもの。
頂点には、阿弥陀仏の仏徳を表すキリークが配されている。
- ・印相（いんそう）
仏が手で示す印の形のことで、高岡大仏は阿弥陀定印（あみだじょういん）。
人々を救済しようとする意思を表す。
- ・蓮台（れんだい）
極楽浄土に往生した者が座る蓮華（れんげ）の座。
長さ2mの蓮弁（れんぺん）には寄付者の名前が刻まれている。
- ・奈良大仏との対比
像高は奈良の大仏（14.98m）の約半分。
顔の大きさも奈良の大仏（5.15m）の約半分。

ストリートミュージアムを今すぐダウンロード

《所在地》富山県高岡市大手町11番29号

《監修》高岡市立博物館

《発行》高岡市日本遺産推進協議会

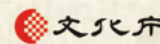
〒933-8601 高岡市広小路7番50号

TEL: 0766-20-1463

E-mail: bunkazai@city.takaoka.lg.jp



高日本遺産岡



令和6年度文化財多言語解説整備事業

高岡大仏歴史双六

双六で振り返る高岡大仏造立の歴史

高岡大仏は幾多の困難を乗り越えてつくられ、その姿を現在まで伝えていきます。これは、その流れを楽しみながら知ることができる双六(すごろく)です。双六は、日本のボードゲームの1つで、サイコロを振って出た目の数に応じて

コマを進めて「ふり出し」から「上がり」まで運ぶことを目的とします。かつては、遊びながら仏教の教えに親しむために用いられました。この双六で遊んで、ぜひ高岡大仏の歴史に触れてみてください。

遊び方



…一マス進む



…二マス進む



…三マス進む

6 一旦とまれ

もう一度サイコロを振る
一回休み

大火が発生、二代目高岡大仏も全焼

高岡の市街地の約六割が焼失する大火に見舞われる

まにかよ!

1900年

上がり

平成の大修理

完成から70年余を経て、大規模な保存修理がなされました。町民の手で造立された愛され続けてきた大仏様は、今日も慈愛の眼差しで高岡のまちを見守っておられます。さあ、もう一度高岡大仏を訪れましょう!

三代目・高岡大仏

2007年

16 開眼式を挙げる

極楽寺三代目住職 谷部良禪により厳かに執り行われた

ここまで 苦節30年以上

円光背を取付

頂点には阿彌陀仏の仏徳を一字で表す梵字が刻まれている。

1958年

1933年

7 松木宗左衛門が大仏再建を發願

大仏寺の熱心な信徒だった松木が、在家出家し勸進の事業を担う

松木宗左衛門

1900年

15 三代目高岡大仏完成

鑄物職人たちが材料を持ち込み無償で作業を続け、ついに現在の

1932年

14 実業家・荻布宗四郎が多額の寄付を行う

荻布宗四郎

1928年

8 中野双山が彫刻家・中野双山が高岡へ帰郷

中野双山

1905年

9 松木宗左衛門らが寄付金と金属集めを開始

青銅製大仏で再建することに

1907年

13 一旦とまれ

松木宗左衛門が病気で永眠

一回休み

1920年

4 二代目・高岡大仏

極楽寺第二十六世謙 誉上人が大仏を再建

1841年

10 中野双山が大仏研究のため全国を視察する

1909年

12 作業中の事故で工事が中止

もう一度サイコロを振る
一回休み

1919年

3 大火が発生、初代大仏が類焼

もう一度サイコロを振る
一回休み

1821年

1 高岡大仏造立(初代)

坂下町極楽寺の良款が高さ約9.7mの木造金色大仏を

1745年

ふり出し

源義勝が二上山に仏像を作る

言い伝えでは、鎌倉時代に源義勝が二上山のふもとに高さ約4.8mの仏像を作った

13世紀頃